

●●●2020年1月～3月期 栃木県中小企業景況調査(163回)●●●

【栃木県D I 指数天気図】 **point!**

今期(県内全体)の業況

D I 値

-24.4

※全国 -24.4

県内全体の業況は、前期比0.8ポイント改善し、D I 値は-24.4となった。全国の業況は3.3ポイント悪化し、県内と同値の-24.4となっている。

業種別にみると、建設業・サービス業において改善が見られたものの、製造業・小売業では悪化となった。経営上の問題点では全業種とも需要の停滞を上位に挙げている。

来期の県内全体の業況は1.8ポイントの悪化となる見込み。建設業は引き続き改善傾向にあり、小売業も10ポイント以上改善となるが、製造業・サービス業は悪化が見込まれる。

～天気図の指標～

現状	良い	やや良い	やや悪い	悪い	とても悪い
天気図					
D I 値	15.1～	15～0.1	0～-15	-15.1～-40	-40.1～

業種	項目	今期(全体)	売上額	仕入単価※	採算	資金繰り	来期予想(全体)
製造業							
	D I 値	-25.2	-30.0	22.2	-23.4	-13.3	-32.6
業況：今期は悪化、来期はさらに悪化の見込み (D I 値 前期比-10.5ポイント)							
建設業							
	D I 値	-12.5	-10.0	50.0	-30.0	-15.0	-5.4
業況：今期は改善傾向、来期も引き続き改善の見込み (D I 値 前期比+7.0ポイント)							
小売業							
	D I 値	-38.8	-25.5	25.0	-35.0	-22.5	-28.5
業況：今期は小幅に悪化、来期は大幅に改善の見込み (D I 値 前期比-5.3ポイント)							
サービス業							
	D I 値	-18.7	-39.9	26.7	-25.0	-15.0	-23.6
業況：今期は改善するも、来期は再び悪化の見込み (D I 値 前期比+8.1ポイント)							

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります

【経営上の問題点】

製造業

- 第1位： 需要の停滞 (28.4%)
- 第2位： 製品(加工)単価の低下・上昇難 (14.9%)
- 第3位： 製品ニーズの変化への対応 (12.2%)

建設業

- 第1位： 従業員の確保難(38.7%)
- 第2位： 民間需要の停滞(16.1%)
- 第3位： 材料価格の上昇 (12.9%)

小売業

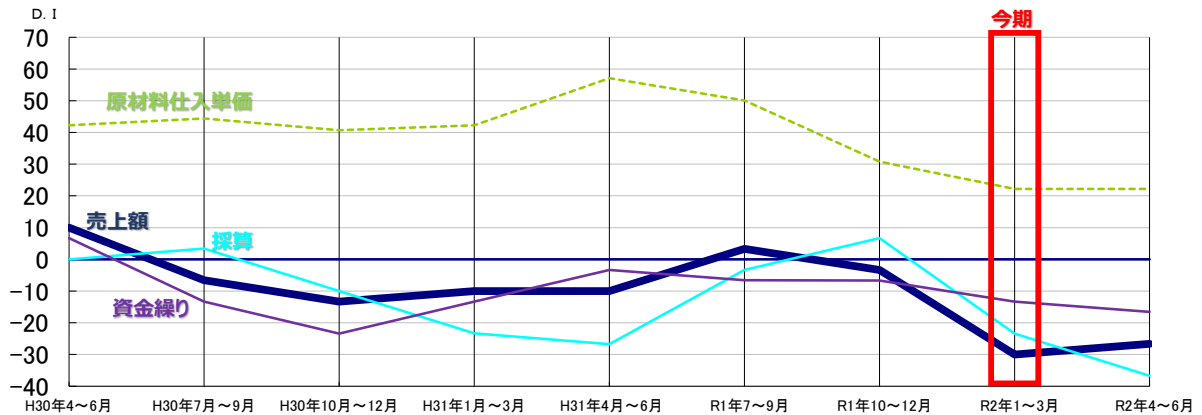
- 第1位： 需要の停滞 (31.0%)
- 第2位： 消費者ニーズの変化への対応(20.7%)
- 第3位： 大・中型店の進出による競争の激化 (12.1%)

サービス業

- 第1位： 利用者ニーズの変化への対応 (23.1%)
- 第2位： 従業員の確保難(16.5%)
- 第3位： 需要の停滞 (16.5%)

製造業

「売上額、採算とも大幅に悪化、来期も停滞続く」

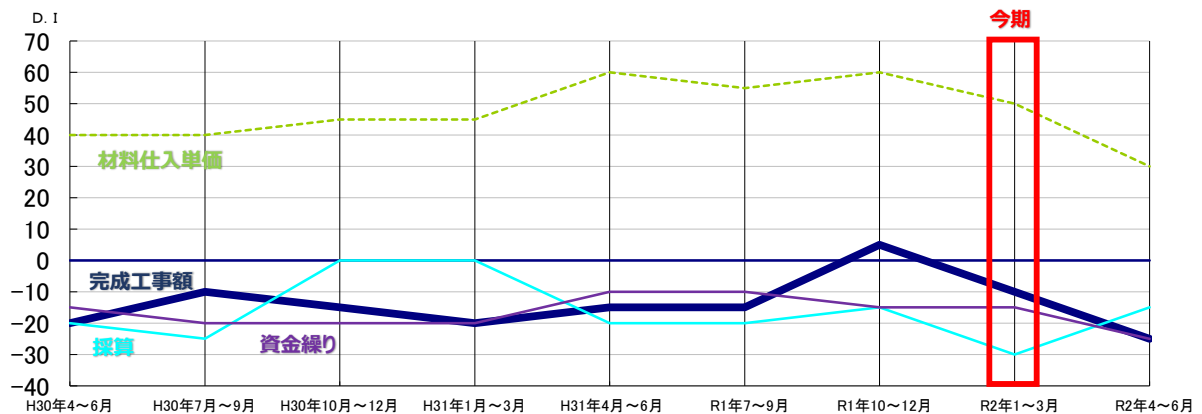


「原材料仕入単価」は22.2ポイント（30.8→22.2）と3期連続で改善が見られたものの、その他の項目では悪化となった。特に「採算」は、30.1ポイント（6.7→-23.4）、「売上額」は26.7ポイント（-3.3→-30.0）と大幅な悪化となった。

来期は、「売上額」が小幅ながら改善（-30.0→-26.6）、「原材料仕入単価」は横這いとなるものの、「採算」は-13.3ポイント（-23.4→-36.7）、「資金繰り」が-3.3ポイント（-13.3→-16.6）と今期に続いて悪化する見込みである。

建設業

「売上額(完成工事額)が悪化、来期も引き続き悪化の見込み」

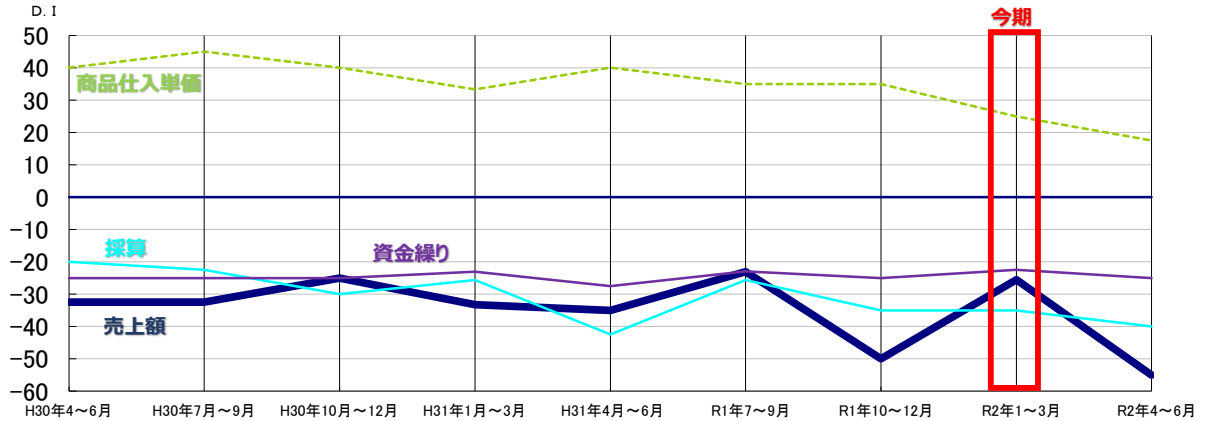


「材料仕入単価」は10.0ポイント（60.0→50.0）改善したものの、「資金繰り」（-15.0→-15.0）は横ばい、「売上額(完成工事額)」（5.0→-10.0）、「採算」（-15.0→-30.0）においてはそれぞれ-15.0ポイントの大幅な悪化となった。

来期の「材料仕入単価」は、引き続き改善（50.0→30.0）、「採算」においても15.0ポイント（-30.0→-15.0）の改善が見込まれるものの、「売上額(完成工事額)」が-15.0ポイント（-10.0→-25.0）、「資金繰り」が-10.0ポイントの大幅な悪化となる見込みである。

小売業

「売上額が大幅に改善するも、来期は大幅な悪化の見込み」

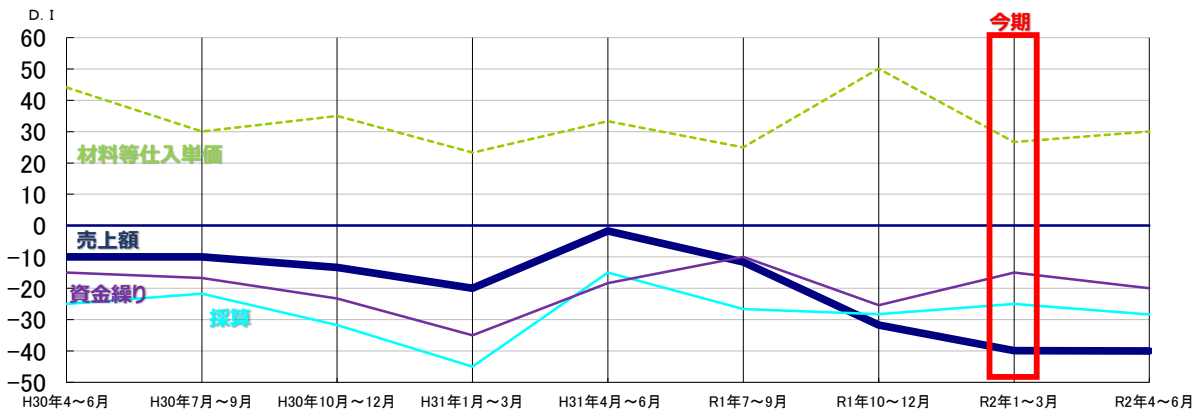


今期は、「売上額」が24.5ポイント（-50.0→-25.5）と大幅に改善され、「商品仕入単価」も10.0ポイント（35.0→25.0）、「資金繰り」においては2.5ポイント（-25.0→-22.5）の改善となった。

来期においては、引き続き「商品仕入単価」が7.5ポイント（25.0→17.5）改善されるものの、その他の項目では悪化が見込まれており、特に「売上額」は29.5ポイント（-25.5→-55.0）の大幅な悪化となる見込みである。

サービス業

「材料等仕入単価が大幅改善、来期は各項目とも悪化傾向」



「材料等仕入単価」は23.4ポイント（50.1→26.7）と大幅な改善が見られた。「採算」3.3ポイント（-28.3→-25.0）、「資金繰り」10.4ポイント（-25.4→-15.0）についても改善されたものの、「売上額」は-8.2ポイント（-31.7→-39.9）の悪化となった。

来期は、「売上額」（-39.9→-40.0）がほぼ横這いとなるものの、「資金繰り」は5.0ポイント（-15.0→-20.0）、「採算」は3.4ポイント（-25.0→-28.4）、「材料等仕入単価」においては3.3ポイント（26.7→30.0）と全項目において悪化する見込みである。

調査要領

○調査の目的

中小企業景況調査は、全国の商工会地区に地域経済観測点を設置し、地域の産業の状況や経済動向等について、一定時期ごとに変化の実態諸情報を迅速かつ的確に収集・提供して、経営改善普及事業の効果的実施に資するものとする。本報告書は、栃木県内商工会地区における、「製造業」「建設業」「小売業」「サービス業」の4業種を、主要景況項目(売上額・原材料仕入単価・採算・資金繰り)から分析し、景況情報をまとめたものである。

○調査対象地区（栃木県商工会地区）

にのみや・塩谷町・都賀町・間々田・那須町
佐野市あそ・石橋・大平町・高根沢町・那須烏山

○調査時点

2020年3月1日

○調査対象期間

2020年1月～3月期の実績及び、2020年4月～6月期の見通しについて調査

○調査方法

商工会の経営指導員による訪問調査

○回答企業数内訳

業種	回答企業数	構成比(%)
製造業	30	20.0%
建設業	20	13.3%
小売業	40	26.7%
サービス業	60	40.0%
合計	150	100.0%

※D I 指数とは

報告書に登場するD I 値とは、デフュージョン・インデックス(Diffusion Index = 景気動向指数)の略であり、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合から減少(低下・悪化)企業割合を差し引いた値を示すものである。

D I 値がプラスのときは業況の好転、マイナスのときは業況の悪化を示すことから、景気の動向を判断する指数として利用される。また、D I 値は強気・弱気など、景況感の相対的な広がりを示すものであり、売上額などの実数値の上昇率とは異なる。

たとえば、今期の売上額を前年同期と比較した結果、増加企業が50%、不変企業が30%、減少企業が20%となったとすると、D I 値は $50 - 20 = 30$ となり、売上額に対して強気の度合いを示している。